

聖霊降臨後第十一主日

特定十六

主よ、教会はただ主の助けによつてのみ健全に立つことができます。どうか絶えることのない助けをもつて主の教会を清め守り、恵みと力によつていつまでも堅く保ってください。主イエス・キリストによつてお願いいたします。

アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましよう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はイザヤ書第二十八章十四節から」

14 嘲る者らよ、主の言葉を聞け

エルサレムでこの民を治める者らよ。

15 お前たちは言った。「我々は死と契約を結び、陰府と協定

している。洪水がみなぎり溢れても、我々には及ばない。我々は欺きを避け所とし、偽りを隠れがとする。」

16 それゆえ、主なる神はこう言われる。「わたしは一つの石をシオンに据える。これは試みを経たし、堅く据えられた礎の、貴い隅の石だ。信ずる者は慌てることはない。」

17 わたしは正義を測り縄とし

恵みの業を分銅とする。雹は欺きという避け所を滅ぼ

し。水は隠れがを押し流す。

18 お前たちが死と結んだ契約は取り消され

陰府と定めた協定は実行されない。洪水がみなぎり、溢れるとき

19 お前たちは、それに踏みにじられる。」

洪水は溢れる度にお前たちを捕らえる。それは朝ごとに溢れ、昼も夜も溢れる。この御告げを説き明かせば

ただ恐怖でしかない。

20 寝床は短くて身を伸ばすことができず

覆いは狭くて身を覆うことができない。

21 主はペラツィム山のときのように立ち上がり

ギブオン谷のときのように憤られる。それは御業を果たされるため。しかし、その御業は未知のもの。また、働きをされるため。しかし、その働きは敵意あるもの。

22 今、嘲ることをやめなければ

お前たちの縄目は厳しくなる。わたしは定められた滅び

について聞いた。それは万軍の主なる神から出て国全体に及ぶ。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

## 詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱えます。

## 第四十六編

- 1 神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの力＝ 悩むときの変わらぬ助け
- 2 たとえ地が揺らぎ、山が海に崩れ落ち＝ 海がどよめき、しぶきを上げ
- 3 その勢いに山々が揺れ動いても＝ 決して恐れることはない
- 4 川が流れ、そのせせらぎは＝ 神の都、いと高き方のみ住まいを喜ばす
- 5 神がおられる都は揺るがない＝ 神は夜明けにこれを助けられる
- 6 もろもろの民は騒ぎ立ち、国々は揺らぐ＝ 神が声を出される土地は溶ける
- 7 万軍の主はわたしたちとともにおられる＝ ヤコブの神

はわたしたちの砦  
主のみ業を仰ぎ見よう＝ 主は地に不思議なみ業を行われた

9 主は地の果てまでも戦いを断ち＝ 弓を折り、槍を砕き、盾を焼かれた

10 「静まれ、わたしを神と知れ＝ わたしはもろもろの民の手でたたえられ、あまねく世界であがめられる」  
11 万軍の主は私たちとともにおられる＝ ヤコブの神はわたしたちの砦

## 使徒書

朗読者 「使徒書はヘブライ人への手紙第十二章十八節から」

18、19 あなたがたは手で触れることができるものや、燃える火、黒雲、暗闇、暴風、ラツパの音、更に、聞いた人々がこれ以上語ってもらいたくないと願ったような言葉の声に、近づいたのではありません。22 しかし、あなたがたが近づいたのは、シオンシオンの山、生ける神の都、天のエルサレム、無数の天使たちの祝いの集まり、23 天に登録されている長子たちの集会、すべての人の審判者である神、完全なものとされた正しい人たちの霊、24 新しい契約の仲介者イエス、そして、アベルの血よりも立派に語る注がれた血です。25 あな

たがたは、語っている方を拒むことのないように気をつけなさい。もし、地上で神の御旨を告げる人を拒む者たちが、罰を逃れられなかったとするなら、天から御旨を告げる方に背を向けるわたしたちは、なおさらそうではありませんか。26

あのときは、その御声が地を揺り動かしましたが、今は次のように約束しておられます。「わたしはもう一度、地だけではなく天をも揺り動かそう。」27 この「もう一度」は、揺り動かされないものが存続するために、揺り動かされるものが、造られたものとして取り除かれることを示しています。28 このように、わたしたちは揺り動かされることのない御国を受けているのですから、感謝しよう。感謝の念をもって、畏れ敬いながら、神に喜ばれるように仕えていこう。29 実に、わたしたちの神は、焼き尽くす火です。

朗読者 「使徒書を終わります」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

## 福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ルカによる福音書第十三章二十二節以下に記された主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

22 イエスは町や村を巡って教えながら、エルサレムへ向かって進んでおられた。23 すると、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と言う人がいた。イエスは一同に言われた。24 「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。25 家の主人が立ち上がった、戸を閉めてしまつてからでは、あなたがたが外に立って戸をたたき、『御主人様、開けてください』と言っても、『お前たちがどこの者か知らない』という答えが返つてくるだけである。26 そのとき、あなたがたは、『御一緒に食べたり飲んだりしましたし、また、わたしたちの広場でお教えを受けたのです』と言いだすだろう。27 しかし主人は、『お前たちがどこの者か知らない。不義を行う者ども、皆わたしから立ち去れ』と言うだろう。28 あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分は外に投げ出されることになり、そこで泣きわめいて歯ぎしりする。29 そして人々は、東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。30 そこでは、後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある。」

司祭 「主に感謝」

会衆

「主に感謝します」